

## 中学生の保健だよりに関する意識調査からの一考察

橋口 文香<sup>\*1</sup>・御厨 慶子<sup>\*2</sup>・高木 富士男<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup>九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

<sup>\*2</sup>北九州市立大里東小学校 北九州市門司区中二十町7-1 (〒800-0023)

<sup>\*3</sup>西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科

福岡市中央区福浜1-3-1 (〒810-0066)

(2018年11月1日受付 2018年12月10日受理)

### 要 旨

保健だよりは保健指導の一貫として行われ、約95%の養護教諭が発行している。先行研究では養護教諭を対象とした、保健だよりの実態調査についてはあるものの、児童生徒を対象とする調査は1987年に難波らが行った調査以降はわずかである。本研究では、中学生の保健だよりに対する意識調査を行い、その実態に対応した保健だよりの作成について考察することを目的とした。結果、難波らの研究と参照すると、男女別においては、30年前と同様に男子に比べ女子は健康に対する意識が高い傾向にあった。また、8割の生徒が保健だよりは役立つと感じており、引き続き生徒の保健や健康に役立つ保健だよりの作成が必要であると考えられた。学校や生徒等の実態が多様化しているため、それらの実態に合わせた保健だよりを作成し、適宜発行していくことが求められている。

### 1. 緒言

深刻化する子どもの現代的な健康課題の解決に向けて、学級担任や教科担任等と連携し、養護教諭の有する知識や技能などの専門性を保健教育に活用することがより求められている。さらに、学級活動などにおける保健指導はもとより専門性を生かし、ティーム・ティーチングや兼職発令を受け保健の領域に関わる授業を行うなど保健学習への参画が増えており、養護教諭の保健教育に果たす役割が増加している<sup>1)</sup>。

学校保健安全法第9条(保健指導)では「養護教諭その他の職員は、相互に連携して、健康相談又は児童生徒等の健康状態の日常的な観察により、児童生徒等の心身の状態を把握し、健康上の問題があると認められるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに、必要に応じ、その保護者(学校教育法第16条に規定する保護者をいう。第24条及び30条に置いて同じ。)に対して必要な助言を行うものとする。」と規定され、児童生徒等や保護者に対して必要な指導や助言を行うものとされている。

学校保健の領域は、健康診断や学校環境衛生検査等の「保健管理」や、保健学習や保健指導等の「保健教育」、学校保健委員会等の「保健組織活動」の3領域からなる。保健教育の

中にある保健学習は学習指導要領に沿って行うものであり、保健指導は特別活動における集団を対象とした保健指導と、保健室や学級で行われる個別の保健指導がある<sup>2)</sup>。

保健だよりは保健指導の一貫として行われ、養護教諭の広報活動の一つでもある。保健だよりは、法的には明確には定められていないにも関わらず、約95%の養護教諭が発行している<sup>3)</sup>。これまでの保健だよりに関する研究を概観すると、鎌塚ら<sup>4)</sup>は小学校の養護教諭を対象に、保健だよりの実態調査や収集した保健だよりの分析を行い、どのような保健だよりが作成されているのか、また養護教諭自身が保健だよりをどのように捉え、どのように活用しているのか、経験年数によって違いがあるのか等の実態を明らかにしている。

このように先行研究では養護教諭を対象とした、養護教諭が作成する保健だよりの実態調査についてはあるものの、児童生徒等を対象とする保健だよりに関する調査は1987年に難波ら<sup>5)</sup>が行った調査以降はわずかであり、養護教諭を対象とする調査に比べて児童生徒等を対象とする調査は少ない。難波ら<sup>5)</sup>の研究において、「保健だよりを読んでいるか」の問いに対して、「いつも読んでいる」と回答した者の割合は、小学校男子40.9%・女子53.6%、中学生男子25.2%・女子45.1%、高校生男子20.6%・女子40.1%と、学校種が上がるにつれて減少している。また、保健だよりに載せてほしい内容として、中学生では男女共に「シンナーや覚醒剤」が最も多く、小学校では上位に入らない項目が最も多い非常に興味深い結果であった。先行研究は約30年前の調査結果であるため、本研究の調査と差があるのではないかと考えられる。本研究では、1987年に難波らが行った研究「保健だよりに関する実態調査」<sup>5)</sup>をもとに、中学生の保健だよりに関する意識調査を行い、その実態に対応した保健だよりについて考察することを目的とする。

## II. 調査方法

### 1. 目的

本研究では、中学生の保健だよりに関する意識調査を行い、その実態に対応した保健だよりについて考察することを目的とする。

### 2. 対象

調査対象校は事前に校長に説明をし、協力の得られた中学校全5校、対象者は計697名である。中学校在学時の保健だよりについて調査するものとし、在学歴が1年以上である中学校2年生及び3年生を対象とする。

### 3. 時期

調査時期は平成29（2017）年7月とした。

### 4. 質問内容及び分析方法

自記式質問紙調査法で無記名にて実施した。1987年に難波らが行った研究「保健だよりに関する実態調査」<sup>5)</sup>をもとに、「保健だよりを保護者に見せているか」「保健だよりを読む

だけではなく、「書きたいと思うか」についても考察するために、オリジナルの項目を加え作成した。

また、男女や学年について比較するため性別と学年を質問項目に加え、保健だよりの発行回数による差を比較するため、事前に対象校に対し発行回数を調査した。

分析方法については、Excel統計処理を使用し、有意差については $\chi^2$ 検定（有意水準は、5%未満とした）を実施後、残差分析の処理を行った。

表1. 質問内容

質問1. 保健だよりを読んでいるかについて ※1
「いつも読んでいる」「時々読んでいる」「ほとんど読んでいない」「全く読んでいない」
質問2. 保健だよりを読まない理由(質問1で答えた理由)について
「面白くないから」「難しいから」「時間がないから」「その他(理由)」
質問3. 保健だよりを読む程度について
「全部読む」「面白いところだけ読む」「見出しだけ読む」「その他(理由)」
質問4. 保健だよりの有益性について
「役立つ」「どちらかといえば役立つ」「どちらかといえば役立つ」「役立つ」「役立つ」
質問5. 保健だよりの興味や関心について
「面白い」「どちらかといえば面白い」「どちらかといえば面白くない」「面白くない」
質問6. 保健だよりの難易度について
「難しい」「どちらかといえば難しい」「どちらかといえば易しい」「易しい」
質問7. 保健だよりに掲載してほしい内容について ※2
(30項目の中から上位5項目を選択する)
質問8. 保健だよりを保護者に見せているかについて
「見せている」「時々見せてる」「あまり見せていない」「見せていない」
質問9. 保健だよりを読むだけでなく、書いてみたいと思うかについて
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」
質問10. 保健だよりに関する希望や意見について
(自由記述)

※1 「いつも読んでいる」と回答した者は質問2.を、「全く読んでいない」と回答した者は質問3.を回答必須から除外する注意書きを行った。

※2 保健だよりに掲載してほしい内容については、雑誌『健康教室』（東山書房）の保健だよ実践編、平成26年4月から平成29年までの3年分の中学校の保健だよ全39部（特別号を除く）に掲載された内容からキーワードを抽出した後、養護教諭専門の教員と質問内容について精査し、分類したものを質問項目とした。

## 5. 倫理的配慮

対象校に事前に連絡後、訪問し調査を依頼した。その後、校長等を通じて学級担任等に依頼した。調査後、訪問し回収を行った。本質問紙調査は無記名とし調査結果に関しては厳重に保管すること、研究以外の目的には使用しないことを自記式質問紙に記載し、回答することで同意を得るものとした。

## III. 調査結果

自記式質問紙の回収数は697名であった。自記式質問紙において複数回答でない項目に

複数回答する等の不備があった者を除外した結果、有効回答数は648名(93.0%)であった。性別は男子326名(50.3%)、女子322名(49.7%)であった。学年は2年生274名(42.3%)、3年生374名(57.7%)であった。発行回数は学期に1回の学校の者が105名(16.2%)、月に1回の学校の者が543名(83.8%)であった。

以下、男女別及び学年別、発行回数別での有意差をみるために $\chi^2$ 検定で検定した結果を掲載する(有意水準は、5%未満とした)。

無回答に有意差が出たものは、質問の回答に対して「どちらでもなく中間的」と捉えたため、表のみの説明とした。

### 1. 保健だよりに関する中学生の実態・意識

保健だよりを読んでいるかについて、男女別では、「いつも読んでいる」と回答した者は、男子46名(14.2%)、女子66名(20.5%)であり、女子が有意に高かった(\* $p<0.05$ )。「全く読んでいない」と回答した者は、男子75名(23.0%)、女子43名(13.4%)であり、男子が有意に高かった(\*\* $p<0.01$ )。学年別では、「いつも読んでいる」と回答した者が、2年生38名(13.9%)、3年生74名(19.8%)であり、3年生が有意に高かった(\* $p<0.05$ )。「全く読んでいない」と回答した者は、2年生64名(23.4%)、3年生54名(14.4%)であり、2年生が有意に高かった(\*\* $p<0.01$ )。発行回数別では、「いつも読んでいる」と回答した者は、学期に1回の学校の者10名(9.6%)、月に1回の学校の者102名(18.8%)であり、月に1回の学校の者が有意に高かった(\* $p<0.05$ )。「時々読んでいる」と回答した者は、学期に1回の学校の者31名(29.5%)、月に1回の学校の者238名(43.8%)であり、月に1回の学校の者が有意に高かった(\*\* $p<0.01$ )。「ほとんど読んでいない」と回答した者は、学期に1回の学校の者39名(37.1%)、月に1回の学校の者110名(20.3%)であり、学期に1回の学校の者が有意に高かった(\*\* $p<0.01$ ) (表2-1)。また、肯定的または否定的回答を合わせると、全てにおいて有意差があった(\*\* $p<0.01$ ) (表2-2)。

表2-1. 保健だよりを読んでいるかについて

質問1	男子(n=326)		女子(n=322)		2年生(n=274)		3年生(n=374)		学期に1回(n=105)		月に1回(n=543)		全体(n=648)	
	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)
「いつも読んでいる」	46	14.2	66	20.5*	38	13.9	74	19.8*	10	9.6	102	18.8*	112	17.3
「時々読んでいる」	124	38.0	145	45.0	106	38.6	163	43.6	31	29.5	238	43.8**	269	41.5
「ほとんど読んでいない」	81	24.8	68	21.1	66	24.1	83	22.2	39	37.1	110	20.3**	149	23.0
「全く読んでいない」	75	23.0	43	13.4**	64	23.4	54	14.4**	25	23.8	93	17.1	118	18.2

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

表2-2. 保健だよりを読んでいるかについて

質問1	男子(n=326)		女子(n=322)		2年生(n=274)		3年生(n=374)		学期に1回(n=105)		月に1回(n=543)		全体(n=648)	
	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)	回答数	回答割合(%)
「いつも読んでいる」「時々読んでいる」	170	52.1	211	65.5**	144	52.6	237	63.4**	41	39.0	340	62.6**	381	58.8
「ほとんど読んでいない」「全く読んでいない」	156	47.9	111	34.5**	130	47.4	137	36.6**	64	61.0	203	37.4**	267	41.2

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

保健だよりを読まない理由について、男女別では、「その他」と回答した者が、男子57

名 (17.5%)、女子33名 (10.2%) であり、男子が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。学年別では、有意差は無かった。発行回数別では、「その他」と回答した者が、学期に1回の学校の者28名 (26.7%)、月に1回の学校の者62名 (11.4%) であり、学期に1回の学校の者が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。「その他」の内容として「興味がないから」や「読む気持ちになれないから」、「保健だよりが何かわからないから」等があった (表3)。

表3. 保健だよりを読まない理由について

質問2	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「面白くないから」	83	16.3	38	11.8	45	16.4	46	12.3	13	12.4	78	14.4	91	14.0
「難しいから」	21	6.4	24	7.5	19	6.9	26	7.0	5	4.8	40	7.4	45	6.9
「時間がいないから」	142	43.6	157	48.8	132	48.2	167	44.6	49	46.6	250	46.0	299	46.1
「その他(理由)」	57	17.5	33	10.2 **	36	13.1	54	14.4	28	26.7	62	11.4 **	90	13.9
質問1で「1」と回答した者	46	14.1	66	20.5 *	38	13.9	74	19.8	10	9.5	102	18.8 *	112	17.3
無回答	7	2.1	4	1.2	4	1.5	7	1.9	0	0.0	11	2.0	11	1.8

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

保健だよりを読む程度について、男女別では、「全部読む」と回答した者は、男子52名 (16.0%)、女子81名 (25.2%) であり、女子が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。学年別では、「全部読む」と回答した者は、2年生43名 (15.7%)、3年生90名 (24.1%) であり、3年生が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。発行回数別では、「面白いところだけ読む」と回答した者が、学期に1回の学校の者14名 (13.3%)、月に1回の学校の者127名 (23.4%) であり、月に1回の学校の者が有意に高かった (\* $p<0.05$ ) (表4-1)。

表4. 保健だよりを読む程度について

質問3	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「全部読む」	82	16.0	81	25.2 **	43	15.7	90	24.1 **	16	15.2	117	21.5	133	20.5
「面白いところだけ読む」	63	19.3	78	24.2	52	19.0	89	23.8	14	13.3	127	23.4 *	141	21.8
「見出しだけ読む」	60	18.4	51	15.8	48	17.5	63	16.8	14	13.3	97	17.9	111	17.1
「その他(理由)」	13	4.0	18	5.6	9	3.3	22	5.9	2	2.0	29	5.4	31	4.8
質問1で「4」と回答した者	75	23.0	43	13.4 **	64	23.3	54	14.4 **	25	23.8	93	17.1	118	18.2
無回答	63	19.3	51	15.8	58	21.2	66	15.0 *	34	32.4	80	14.7 **	114	17.6

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

保健だよりの有益性について、男女別では、「どちらかといえば役立つ」と回答した者が、男子155名 (47.5%)、女子182名 (56.5%) であり、女子が有意に高かった (\* $p<0.05$ )。「役立たない」と回答した者は、男子29名 (8.9%)、女子11名 (3.4%) であり、男子が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。学年別では、「役立つ」と回答した者は、2年生77名 (28.1%)、3年生146名 (39.0%) であり、3年生が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。「役立たない」と回答した者は、2年生24名 (8.8%)、3年生16名 (4.3%) であり、2年生が有意に高かった (\* $p<0.05$ )。発行回数別では、「役立つ」と回答した者は、学期に1回の学校の者24名 (22.9%)、月に1回の学校の者199名 (36.6%) であり、月に1回の学校の者が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ ) (表5-1)。また、肯定的または否定的回答を合わせると、男女別及び学

年別において両項目 (\*\* $p<0.01$ )、発行回数別「役立つ」( $p<0.05$ ) に有意差があった (表5-2)。

表5-1. 保健だよりの有益性について

質問4	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「役立つ」	113	34.7	110	34.2	77	28.1	146	39.0 **	24	22.9	199	36.6 **	223	34.4
「どちらかといえば役立つ」	155	47.5	182	56.5 *	147	53.6	190	50.8	59	56.1	278	51.2	337	52.0
「どちらかといえば役立つたない」	26	8.0	16	5.0	23	8.4	19	5.1	11	10.5	31	5.7	42	6.5
「役立つたない」	29	8.9	11	3.4 **	24	8.8	16	4.3 *	8	7.6	32	5.9	40	6.2
無回答	3	0.9	3	0.9	3	1.1	3	0.8	3	2.9	3	0.6 *	6	0.9

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

表5-2. 保健だよりの有益性について

質問4	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「役立つ」「どちらかといえば役立つ」	268	82.2	292	90.7 **	224	81.7	336	89.8 **	83	79.0	477	87.8 *	560	86.4
「どちらかといえば役立つたない」「役立つたない」	55	16.9	27	8.4 **	47	17.2	35	9.4 **	19	18.1	63	11.6	82	12.7
無回答	3	0.9	3	0.9	3	1.1	3	0.8	3	2.9	3	0.6 *	6	0.9

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

保健だよりの興味や関心について、男女別では、「面白くない」と回答した者は、男子79名 (24.2%)、女子53名 (16.5%) であり、男子が有意に高かった ( $p<0.05$ )。学年別では、「面白い」と回答した者は、2年生31名 (11.3%)、3年生63名 (16.8%) であり、3年生が有意に高かった ( $p<0.05$ )。「どちらかといえば面白い」と回答した者は、2年生96名 (35.0%)、3年生168名 (44.9%) であり、3年生が有意に高かった ( $p<0.05$ )。「面白くない」と回答した者は、2年生77名 (28.1%)、3年生55名 (14.7%) であり、2年生が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。発行回数別では、「どちらかといえば面白くない」と回答した者は、学期に1回の学校の者34名 (32.4%)、月に1回の学校の者118名 (21.7%) であり、学期に1回の学校の者が有意に高かった ( $p<0.05$ ) (表6-1)。また、肯定的または否定的回答を合わせると、男女別「面白くない」及び学年別両項目 (\*\* $p<0.01$ )、男女別「面白い」及び発行回数別両項目 ( $p<0.05$ ) に有意差があった (表6-2)。

表6-1. 保健だよりの興味や関心について

質問5	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「面白い」	43	13.2	51	15.8	31	11.3	63	16.8 *	9	8.6	85	15.7	94	14.5
「どちらかといえば面白い」	121	37.1	143	44.4	96	35.0	168	44.9 *	37	35.1	227	41.7	264	40.7
「どちらかといえば面白くない」	81	24.8	71	22.0	68	24.8	84	22.5	34	32.4	118	21.7 *	152	23.5
「面白くない」	79	24.2	53	16.5 *	77	28.1	55	14.7 **	22	21.0	110	20.3	132	20.4
無回答	2	0.7	4	1.3	2	0.8	4	1.1	3	2.9	3	0.6 *	6	0.9

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.

表6-2. 保健だよりの興味や関心について

質問5	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「面白い」「どちらかといえば面白い」	164	50.3	194	60.2 *	127	46.4	231	61.7 **	46	43.8	312	57.4 *	358	55.2
「どちらかといえば面白くない」「面白くない」	160	49.1	124	38.5 **	145	52.9	139	37.2 **	56	53.3	228	42.0 *	284	43.8
無回答	2	0.6	4	1.3	2	0.7	4	1.1	3	2.9	3	0.6 *	6	1.0

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n.s.



保健だよりの難易度について、男女別では、「どちらかといえば易しい」と回答した者は、男子112名 (34.3%)、女子139名 (43.2%) であり、女子が有意に高かった (\* $p<0.05$ )。学年別では、「どちらかといえば易しい」と「易しい」を合わせて「易しい」と肯定的な回答した者が、2年生166名 (60.6%)、3年生255名 (68.2%) であり、3年生が有意に高かった ( $p<0.05$ ) (表7-2)。発行回数別では、「どちらかといえば難しい」と回答した者が、学期に1回の学校の者31名 (29.5%)、月に1回の学校の者109名 (20.1%) であり、学期に1回の学校の者が有意に高かった (\* $p<0.05$ )。「易しい」と回答した者は、学期に1回の学校の者11名 (10.5%)、月に1回の学校の者159名 (29.3%) であり、月に1回の学校の者が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ ) (表7-1)。また、肯定的または否定的回答を合わせると、発行回数別「易しい」(\* $p<0.01$ )、男女別は両項目及び発行回数別「難しい」(\* $p<0.05$ ) に有意差があった (表7-2)。

表7-1. 保健だよりの難易度について

質問6	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「難しい」	39	12.0	26	8.1	34	12.4	31	8.3	13	12.4	52	9.6	65	10.0
「どちらかといえば難しい」	79	24.2	61	18.9	61	22.3	79	21.1	31	29.5	109	20.1 *	140	21.6
「どちらかといえば易しい」	112	34.3	139	43.2 *	98	35.8	153	40.9	42	40.0	209	38.4	251	38.7
「易しい」	85	26.1	85	26.4	68	24.8	102	27.3	11	10.5	159	29.3 **	170	26.2
無回答	11	3.4	11	3.4	13	4.7	9	2.4	8	7.6	14	2.6 **	22	3.5

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

表7-2. 保健だよりの難易度について

質問6	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「難しい」「どちらかといえば難しい」	118	36.2	87	27.0 *	95	34.7	110	29.4	44	41.9	161	29.7 *	205	31.6
「どちらかといえば易しい」「易しい」	197	60.4	224	69.6 *	166	60.6	255	68.2 *	53	50.5	368	67.7 **	421	65.0
無回答	11	3.4	11	3.4	13	4.7	9	2.4	8	7.6	14	2.6 **	22	3.4

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

保健だよりに掲載してほしい内容について、保健だよりに載せてほしいことは何か (30項目の中から上位5項目を選択する) について全体の結果は以下の通りである (図1)。なお、下記の他に「低体温」(5.8%)、「HIV・AIDSや性に関することについて」(5.4%)、その他7項目があった。

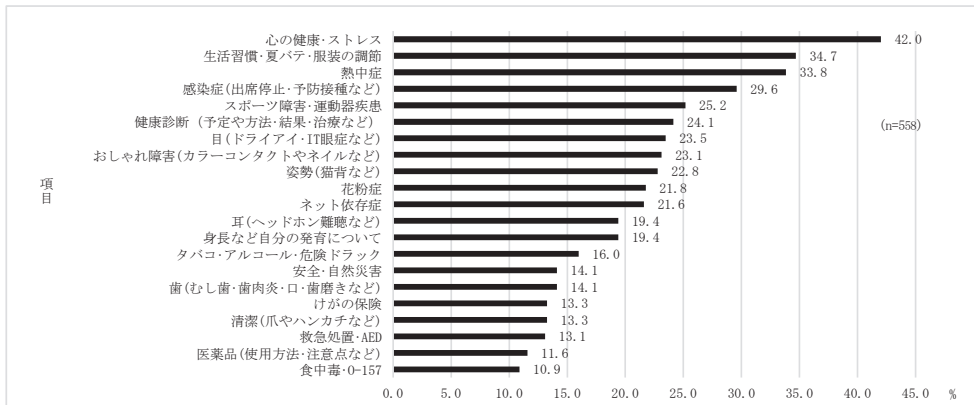


図1. 保健だよりに掲載してほしい内容について(全体;複数回答可)

男女別において、上位5項目は以下の通りである(図2・3)。男子では、上位5項に次いで「健康診断(予防や方法・結果・治療など)」81名(27.5%)、「目(ドライアイ・IT眼症など)」63名(21.4%)であった。女子では、上位5項目に次いで「姿勢(猫背など)」72名(24.6%)、「耳(ヘッドホン難聴など)」70名(23.9%)であった。

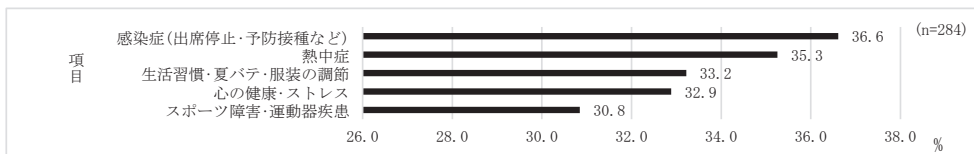


図2. 保健だよりに掲載してほしい内容について(男女別・男子生徒;複数解答可)

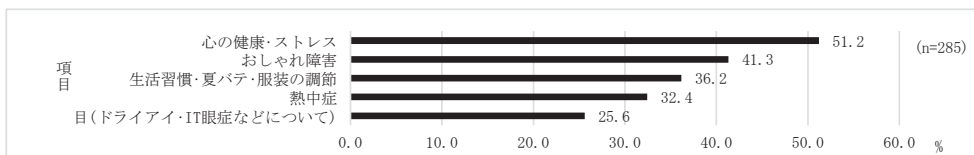


図3. 保健だよりに掲載してほしい内容について(男女別・女子生徒;複数回答可)

学年別において、上位5項目は以下の通りである(図4・5)。2年生では、上位5項目に次いで「おしゃれ障害(カラーコンタクトやネイルなど)」62名(25.4%)、「ネット依存症」55名(22.5%)であった。3年生では、上位5項目に次いで「姿勢(猫背など)」93名(27.0%)、「目(ドライアイ・IT眼症など)」92名(26.7%)であった。



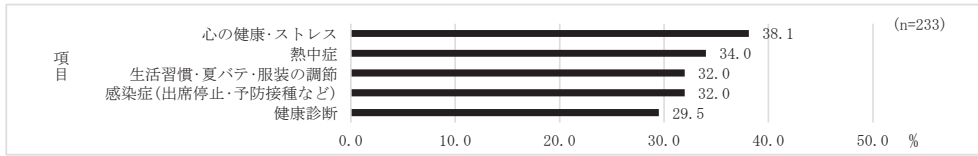


図4. 保健だよりに掲載してほしい内容について (学年別・2年生;複数回答可)

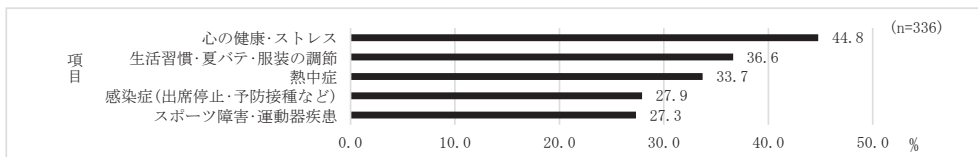


図5. 保健だよりに掲載してほしい内容について (学年別・3年生;複数回答可)

発行回数別において、上位5項目は以下の通りである(図6・7)。発行回数が学期に1回の学校の者は、上位5項目に次いで「生活習慣・夏バテ・服装の調節」28名(28.3%)、「スポーツ障害・運動器疾患」27名(27.3%)であった。発行回数が月に1回の学校の者は、上位5項目に次いで「スポーツ障害・運動器疾患」121名(24.7%)、「目(ドライアイ・IT眼症など)」117名(23.9%)であった。

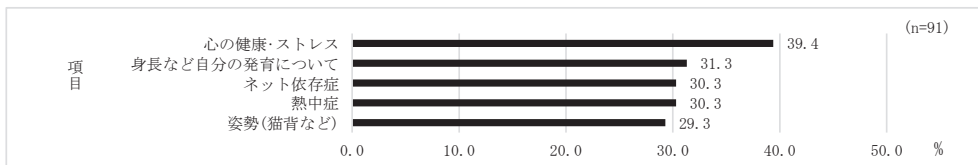


図6. 保健だよりに掲載してほしい内容について (発行回数別・学期に1回;複数回答可)

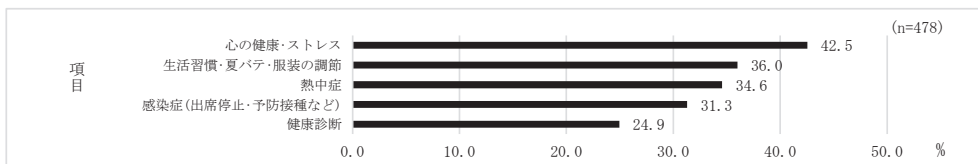


図7. 保健だよりに掲載してほしい内容について (発行回数別・月に1回;複数回答可)

保健だよりを保護者に見せているかについて、全てにおいて有意差はなかった(表8-1・8-2)。保健だよりを読むだけではなく、書いてみたいと思うかについて、男女別では、「どちらかといえばそう思う」と回答した者が、男子12名(3.7%)、女子26名(8.1%)であり、

女子が有意に高かった (\* $p<0.05$ )。「どちらかといえばそう思わない」と回答した者が、男子52名 (16.0%)、女子81名 (25.2%) であり、女子が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。「そう思わない」と回答した者が、男子250名 (76.7%)、女子206名 (63.9%) であり、男子が有意に高かった (\*\* $p<0.01$ )。学年別及び発行回数別での有意差は見られなかった(表9-1)。また、回答を合わせた際に、有意差はなかった(表9-2)。

表8-1. 保健だよりを保護者に見せているかについて

質問8	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「見せている」	153	46.9	173	53.7	134	48.9	192	51.2	52	49.5	274	50.5	326	50.3
「時々見せている」	69	21.2	63	19.6	57	20.8	75	20.1	20	19.0	112	20.6	132	20.4
「あまり見せていない」	32	9.8	38	11.8	26	9.5	44	11.8	10	9.6	60	11.0	70	10.8
「見せていない」	67	20.6	44	13.7	52	19.0	59	15.8	23	21.9	88	16.2	111	17.1
無回答	5	1.5	4	1.2	5	1.8	4	1.1	0	0.0	9	1.7	9	1.4

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

表8-2. 保健だよりを保護者に見せているかについて

質問8	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「見せている」「時々見せている」	222	68.1	236	73.3	191	69.7	267	71.4	72	68.6	386	71.0	458	70.7
「あまり見せていない」「見せていない」	99	30.4	82	25.5	78	28.5	103	27.5	33	31.4	148	27.3	181	27.9
無回答	5	1.5	4	1.2	5	1.8	4	1.1	0	0.0	9	1.7	9	1.4

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

表9-1. 保健だよりを読むだけではなく、書いてみたいかと思うかについて

質問9	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「そう思う」	7	2.1	5	1.6	7	2.6	5	1.3	1	1.0	11	2.0	12	1.9
「どちらかといえばそう思う」	12	3.7	26	8.1	17	6.2	21	5.6	7	6.7	31	5.7	38	5.9
「どちらかといえばそう思わない」	52	16.0	81	25.2	52	19.0	81	21.7	21	20.0	112	20.6	133	20.5
「そう思わない」	250	76.7	206	63.9	193	70.4	265	70.3	76	72.3	380	70.0	456	70.3
無回答	5	1.5	4	1.2	5	1.8	4	1.1	0	0.0	9	1.7	9	1.4

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

表9-2. 保健だよりを読むだけではなく、書いてみたいかと思うかについて

質問9	男子 (n=326)		女子 (n=322)		2年生 (n=274)		3年生 (n=374)		学期に1回 (n=105)		月に1回 (n=543)		全体 (n=648)	
	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)	回答数	回答割合 (%)
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」	19	5.8	31	9.6	24	8.8	26	7.0	8	7.6	42	7.7	50	7.7
「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」	302	92.6	287	89.1	245	89.4	344	91.9	97	92.4	492	90.6	589	90.9
無回答	5	1.6	4	1.3	5	1.8	4	1.1	0	0.0	9	1.7	9	1.4

\*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  blank:n. s.

## (10) 保健だよりの希望や意見について

「面白くしてほしい」や「イラストを増やしてほしい」、「カラー印刷にしてほしい」、「知らないことを教えてほしい」、「世界の保健について知りたい」等があった。

## IV. 考察

### 1. 男女別及び年代別の保健だよりに関する意識について

「保健だよりを読んでいるか」について、「いつも読んでいる」と回答した者の割合は男子14.2%、女子20.5%であり、女子が有意に高かった。難波ら<sup>5)</sup>の研究では、「いつも読んでいる」と回答した者の割合は男子25.2%、女子45.1%であった。本研究と参照すると、「いつも読

んでいる」と回答した生徒は30年前に比べ大幅に減少した。また、本研究においても男子に比べ女子で「いつも読んでいる」と回答した者が有意に多く同様の結果となった。さらに、「保健だよりを読む程度」について、「全部読む」と回答した者の割合は男子16.0%、女子25.2%であり、女子が有意に高かった。難波ら<sup>5)</sup>の研究は、本研究と同様の項目であり、「全部読む」と回答した者は、男子31.6%、女子44.7%であった。本研究と参照すると「全部読む」と回答した者は、30年前に比べ大幅に減少した。また、本研究においても男子に比べ女子で「全部読む」と回答した者が有意に多く同様の結果となった。「保健だよりの難易度」について、本研究において「難しい」と回答した者の割合は、男子36.2%、女子27.0%であり、女子が有意に高かった。難波ら<sup>5)</sup>の研究では、「難しい」と回答した者の割合は、男子24.9%、女子21.8%であった。本研究と結果を参照すると、男女共に「難しい」と回答する者の割合は、30年前と比べて増加した。健康日本21（第二次）に関する健康意識・認知度調査<sup>6)</sup>では、平成27年の「健康日本21」や「健康寿命」、「メタボリックシンドローム」等の全8つの健康に関する用語の認知度について調査した結果、6項目で男性に比べ女性は認知度が高く、2項目はほぼ同等の認知度であった。この調査の対象は全国の20歳以上の男女であり、中学生は対象に含まれてはいない。男性に比べ女性は、健康に関する用語の認知度が高かったことから、女性の健康意識が高いと推察される。女性の健康意識が高いことを、中学生の女子に当てはめると、本研究で男子に比べ女子で保健だよりを「いつも読んでいる」と回答した者が多く、健康についての用語の認知度、つまり健康への意識が男性より高いため、保健だよりを「難しい」と回答する者の割合が低かったのではないかと考えられる。

「保健だよりの有益性」について、本研究において「役立つ」と回答した者の割合は男子82.2%、女子90.7%であり、女子が有意に高かった。難波ら<sup>5)</sup>の研究では、「役に立つ」と回答した者の割合は、男子87.5%、女子95.8%であり、本研究と参照すると、30年前と比べて「役立つ」と回答した者は、やや減少したが、いずれも高い割合で「役立つ」と感じていた。よって、いつの年代においても、保健だよりは「役立つ」と多くの生徒が感じていることがわかった。保健だよりは保健指導の一つであり、(個別の)保健指導の目的は「個々の児童生徒の心身の健康問題の解決に向けて、自分の健康問題に気づき、理解と関心を深め、自ら積極的に解決していこうとする自主的、実践的な態度の育成を図る。」<sup>2)</sup>である。今後も継続して生徒にとって役立つ保健だより、つまり保健指導の目的の達成に役立つような保健だよりの作成が必要である。

「保健だよりの興味や関心」について、本研究では「面白い」と回答した者の割合は、男子50.3%、女子60.2%であり、女子が有意に高かった。難波ら<sup>5)</sup>の研究では、「面白い」と回答した者の割合は男子62.5%、女子65.0%であった。本研究と参照すると、「面白い」と回答している者の割合は、30年前と比べて減少している。また、本研究においても、男子に比べ女子は「面白い」と感じていたことから、生徒が「面白い」と感じる内容にするために、

生徒の興味や関心を教育の場での日々の会話やアンケート等を活用することで把握し、保健だよりの内容に反映させていくことが望ましいと考えられる。さらに、「保健だよりに掲載してほしい内容」について、本研究において男子では「感染症（出席停止・予防接種など）」、「熱中症」、「生活習慣・夏バテ・服装の調節」、「心の健康・ストレス」、「スポーツ障害・運動器疾患」、女子では「心の健康・ストレス」、「おしゃれ障害」、「生活習慣・夏バテ・服装の調節」、「熱中症」、「目（ドライアイ・IT眼症など）」が上位5項目であった。難波ら<sup>5)</sup>の研究では、多い順に男子は「シンナーや覚醒剤」「がん」「近視」「たばこ」「救急処置」、女子は「シンナー覚醒剤」「肥満と痩せ」「近視」「食物と栄養」「救急処置」であった。男女共に上位1位であった「シンナーや覚醒剤」の項目は、本研究の関連項目では「たばこ・アルコール・危険ドラッグ」であり、男子19.7%、女子12.3%あったため、上位5項目には入らなかった。このことから、保健だよりに掲載してほしい内容は時代とともに変化していることがわかった。鎌塚ら<sup>4)</sup>の研究では、保健だよりの内容の精選としてあげられた項目で、「旬な話題」が最も多く、次いで「実態に即した内容」であった。本研究においても上記のように、生徒の興味や関心を日々の会話やアンケート等を活用して、時代に合わせた旬な話題や、生徒の実態に即した保健だよりの作成が必要となることが示唆された。そのため、研修等を通して最新の知見を取り入れる必要がある。

## 2. 学年別の保健だよりに関する実態・意識

学年別において3年生に比べ2年生は、「保健だよりを読んでいるか」について、「いつも読んでいる」と回答した者が有意に少なく、「全く読んでいない」と回答した者が有意に多かった。また、「保健だよりをどの程度読んでいるか」について「全部読む」と回答した者は有意に少なく、「保健だよりの有益性」について「役立つ」と回答した者は有意に少なかった。さらに、「保健だよりの興味・関心」について、「面白くない」と回答した者は、有意に多かった。このことから、2年生は保健だよりの関心等について消極的であることがうかがえる。本研究の「保健だよりの難易度」では、「易しい」と回答した者が、2年生において有意に少なかったため、発達段階の差から2年生は保健だよりの内容を「難しい」と感じていることがうかがえ、保健だよりの関心等に消極的であることは、保健だよりの内容の難易度と関係があると推察された。鎌塚ら<sup>4)</sup>は、「読み手である子どもや、保護者を理解することによっておのずと、記事を対象別に分ける必然性が出てくるであろう。」と述べている。また、齊藤<sup>7)</sup>は掲示板や保健だよりについて、「発達段階の違う1年～6年までの児童が一つの掲示板から学ぶには限界があると悩んでいました。そこで思いついたのが、初級編（中級編）-上級編の『発達段階別保健だより』です。掲示板と保健だよりを組み合わせることで、先の課題を乗り越えようと考えました。」と紹介している。このように、生徒や保護者を理解し記事を対象別に分け、さらには発達に応じて学年別に分けることの必要性があると考えられる。

### 3. 発行回数別の保健だよりに関する実態・意識

発行回数別において、発行回数が月に1回の学校の者に比べ、学期に1回の学校の者は、「保健だよりをよんでいるか」について、「読んでいない」と回答した者が有意に多かった。また、「保健だよりの有益性」について「役立つ」と回答した者が有意に少なく、「保健だよりの興味や関心」について、「面白い」と回答した者が有意に少なかった。さらに、「保健だよりの難易度」について、「難しい」と回答した者が、有意に多かった。これらから、発行回数が月に1回の学校の者は、保健だよりを発行する者の立場からすると、保健だよりに対する関心等が消極的であることが考えられ、保健だよりを「難しい」と感じていることがわかった。坂井<sup>8)</sup>は、保健だより発行回数が月1回だった時の内容は、事務的な内容が半分以上で、伝えたいことの一部しか掲載することができなかつたため、現在は保健だよりを毎日発行していると紹介している。また、三好<sup>9)</sup>は、生徒・保護者に向けた保健だより(月に1回)、保健だより健康診断特別号(年間5回)、職員向けの保健だより(月1回)の3種類の保健だよりを発行していると紹介している。本研究の対象校では、発行回数が学期に1回と月に1回であったが、学校や地域、児童生徒の実態に合わせて発行回数を検討したり、発行する時期を工夫したりすることも必要であると考えられる。中島ら<sup>10)</sup>の研究において、保健だよりの作成期間は1週間未満が4割強、1～2週間が3割であることが明らかになっている。保健だよりの発行回数を増やすと、作成時間も比例して増加する。そのため、保健だよりの発行回数を増やせば良いだけの問題ではなく、内容の精選も必要であると考えられる。

### 4. その他の保健だよりに関する実態・意識

「保健だよりを読まない理由」については、本研究では男女共に「時間がないから」が最も多かった。鎌塚ら<sup>4)</sup>は、「児童生徒、保護者にとって、インターネットが普及した現在において保健だよりがどのような役割を持つかの調査も必要である。」と述べている。本研究において、保健だよりを読まない理由として、男女共に「時間がないから」が最も多かったことから、インターネット等を利用した効率的な情報収集が、生徒から求められていると示唆された。学校のホームページで保健だよりを公開している者は16%である<sup>3)</sup>といわれている。養護教諭がインターネット等を利用して保健だよりを公開することは、生徒が自身の時間に合わせて保健だよりを見ることができ、本研究の結果である、保健だよりを読まない理由で最も多かった「時間がないから」を、解消できる一つの方法となるのではないかと考えられる。

「保健だよりを保護者に見せているか」について、全てにおいて有意差はなかった。鎌塚ら<sup>4)</sup>は、「保健だよりが、子どもが最初の読み手であることが、認識されていないという実態が明らかになった。」と述べている。このことから、生徒が読んだ後に保護者に見せているのかの調査が必要だと判断し、この質問項目をオリジナルで追加した。「見せている」と回答した者が約7割おり、ほとんどの生徒が保護者に保健だよりを見せていた。しかし、中には「保



健だよりは保護者が読むものだと思っていた。」等の回答もあった。鎌塚ら<sup>4)</sup>は、「保健だよりが、子どもが最初の読み手であることが、認識されていないという実態が明らかになった。」と述べている。今回の研究においても、記事を対象別に分ける必然性が明確になったのではないかと考えられる。また、保健だよりの意義と目的を明確にした上で、読み手を意識した文章の使い方、表現の仕方等を工夫することが必要といえる。

「保健だよりを読むだけではなく、書いてみたいと思うか」について、全てにおいて有意差はなかった。鎌塚ら<sup>4)</sup>の研究において、保健だよりを保健教育に繋げているかの調査が行われた。そこでは、「繋げている」6割強、「繋げていない」3割弱であった。保健教育に繋げる一つの方法として、生徒が自ら保健だよりを書きたいと思うのかについての調査が必要だと判断し、この質問項目をオリジナルで追加した。上記の質問に対して本研究では、「思わない」と回答した者が半数以上であった。調査を依頼した際、校長からこの質問項目について、「書きたいと思っても、文章にできない生徒が多い。」と伺った。このことから、保健だよりを書きたいと思っても、書けない生徒がいると示唆された。鎌塚<sup>11)</sup>は、「養護教諭が直接、全校の児童生徒に向けて保健教育を実施することは困難であるため、保健だよりを使用した学級担任による保健指導の機会は大変重要です。つまり、保健指導教材としての活用をより意識した保健だよりの作成が大切です。」と述べている。本来ならば、保健だよりは保健指導の一つであるため、養護教諭だけではなく、学級担任等も指導者となる。しかし、佐藤ら<sup>12)</sup>の研究から、保健だよりは「配るだけ」にとどまり、学級担任における保健だよりの活用は少ないことが明らかになっている。本研究の「保健だよりを読むだけではなく、書いてみたいと思うか」の問いに対し、「思わない」と回答した者が半数以上いたことから、生徒自身が保健だよりを自らの生活に活用することも必要であるが、学級担任等が保健だよりを活用し、保健教育に繋げることが望ましいと推察された。

「保健だよりの希望や意見」について、「面白くしてほしい」や「イラストを増やしてほしい」、「カラー印刷にしてほしい」等があった。この結果のように生徒は視覚的な情報を与えるような保健だよりを求めていると示唆された。また、保健だよりの希望や意見を反映するには、生徒から希望等を聴取したり、評価を受けたりする必要がある。さらに、生徒からの希望等や評価に加え、作成である養護教諭の自己評価も必要である。鎌塚ら<sup>4)</sup>の研究では、保健だよりの作成計画を作成している者は3割弱であることを明らかにしている。さらに、中島ら<sup>10)</sup>の研究では、保健だよりを作成している者の中で、評価をしていない者の割合は6割強であることを明らかにしている。生徒の希望や意見に即した保健だよりを作成することが望ましく、さらに、より良い保健だよりを作成するためには、評価を含むPDCAサイクルが必要であると考えられる。保健だよりのPDCAサイクルの例として、P (Plan) では、学校保健計画や保健室経営計画等に基づき保健だよりの年間計画を作成する。D (Do) においては、定期発行に加え臨時的な発行も行う。先行の調査<sup>3)</sup>では、臨時に保健だよりを発行する時(複数

回答可) について、「感染症の流行の兆しがあるとき」が8割強、次いで「健康診断」、「長期休暇の前」が5割弱であった。このことから、上記のような保健だよりの臨時発行も適宜行う必要があるのではないだろうか。C (Check) では、評価を行う。山田ら<sup>13)</sup>は、保健指導についての研究の中で、授業の評価をどのような項目から実施しているかについて調査している。結果、「目標と合わせた評価」が6割弱と最も多く、次いで「実践化」5割強、「客観的な評価」3割強であった。授業においては「目的と合わせた評価」が最も多いことから、保健だよりの評価についても、生徒や学級担任からの評価だけではなく、保健だよりの目標、つまり、ねらいと合わせた評価を行っていく必要がある。A (Action) においては、本年度の評価等を来年度に活用し、上記のPDCAサイクルをもとにより良い保健だよりを作成することが望ましいと考えられる。

## V. 総括及び結論

1. 本研究と30年前に行われた難波ら<sup>5)</sup>の研究を参照すると、男女別においては、30年前の結果と同様に、男子に比べ女子は健康に対する意識が高い傾向があった。また、8割を超える生徒が保健だよりは役立つと感じていることから、引き続き生徒の保健や健康に役立つ保健だよりの作成が求められている。生徒の保健だよりに関する興味や関心は時代と共に変化し、その時代や、生徒に合った保健だよりの内容の精選を行っていく必要がある。
2. 学年別では、2年生に保健だよりの関心について消極的な生徒が有意に多く見られた。このことから、保健だよりの内容を精査し、対象を理解して、保健だよりを作成することが求められていると考えられる。
3. 発行回数別については、本研究の調査の対象学校の発行回数は、学期に1回及び月に1回であった。保健だよりの関心について学期に1回と、他対象校に比べ発行回数が少ない者は、保健だよりの関心について消極的な生徒が有意に多かった。発行回数は学校や生徒等の実態に合わせて多様化しており、実態に合わせた保健だよりを作成し、適宜発行していくことが求められていると考えられる。
4. 保健だよりの活用について、生徒自身が保健だよりを「書く」だけでなく、保健だよりを「活用する」とすることが必要である。さらに、学級担任等が保健だよりを発行するだけにとどまらず、保健だよりを活用し、保健教育に繋げることも望ましいと推察された。保健だよりの作成については、PDCAサイクルに基づき実施することで、より良い保健だよりの作成に繋がると考えられる。

今後の課題として、学校の地域差や、保健だよりの発行回数も異なるため、対象の選定に限界があげられた。また、保健だよりに関する先行研究が少なく、先行研究の対象の学校種も様々で、情報に偏りがあったと考えられる。今後は、質問の内容を精選し、調査対象を広げ、児童生徒の保健だよりに関する実態について研究を深め、児童生徒が求める保健だよ



りを制作する必要がある。

## VI. 謝辞

本研究を進めるに当たり、ご多忙中に関わらず、調査にご協力いただきました、全5校の校長先生をはじめ先生方、生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。

## VII. 引用・参考文献

- 1) 文部科学省、中央審議会答申「子どもの心身の健康を守り、安心・安全を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について」、(2006)
- 2) 文部科学省、教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き、(2011)
- 3) 健康教室「保健だよりと掲示物-保健室から発信する教育の形-」、(2011) 東山書房(京都) pp.2-7
- 4) 鎌塚優子、林典子、鈴木恵子、下村淳子、井澤晶子、小学校における養護教諭の保健だより作成実態、静岡大学教育学部研究報告 人文・社会・自然科学篇、66 (2016) 225-238
- 5) 難波英子、中桐佐智子、津島ひろ江、松岡弘、報告保健だよりに関する実態調査、学校保健研究、29 (11) (1987) 543-549
- 6) 厚生労働科学研究、「健康日本21(第二次)の推進に関する研究」、(2012)
- 7) ほけんだよりのアイデア・ファイル『健康教室』7月増刊号、(2017) 東山書房(京都)
- 8) 前掲7)、pp.76-77
- 9) 前掲7)、pp.86-87
- 10) 中島節子、池田みずゞ、長谷川久江、早川維子、門川由紀江、高等学校における保健だよりに関する調査、松本大学研究紀要、13 (2015) 73-79
- 11) 前掲7)、pp.13-18
- 12) 佐藤佳代子、小浜明、「保健だより」に関する一考察-雑誌『健康教室』に掲載されて保健だよりの機能の推移と1987年・2010年の製作実態に関する比較-、仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集、12(2011)51-58
- 13) 山田浩平、橋本みや子、井本陽子、榊原万由美、松下弘美、養護教諭が行う保健指導の実情、学校保健研究、56(6) (2016) 322-333

## Survey on Status and Attitudes of Junior High School Students Concerning “Health Bulletins”

Fumika HASHIGUCHI\*<sup>1</sup>, Keiko MIKURIYA \*<sup>2</sup>, Fujio TAKAKI\*<sup>3</sup>

\*<sup>1</sup>Department of Childhood Care and Education Kyushu Women’s Junior College  
7-1, Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

\*<sup>2</sup>Kitakyu City Dairi-higashi Junior School

1-1, Nakaniji-cho, Moji-ku, Kitakyushu-shi 800-0023, Japan

\*<sup>3</sup>Department of Health and Sports Communication Nishi-nippon Junior College  
1-3-1, Fukuhama, Cyuou-ku, Fukuoka-shi 810-0066, Japan

### Abstract

About 95% of Yo-go teacher issue Health Bulletins as part of their health guidance activities. Although some earlier studies surveyed the status of Health Bulletins among nursing teachers, only a few surveys have been conducted that focus on students since a survey was conducted in 1987 by Namba, et al. In this study, a survey is conducted on the attitudes of students towards Health Bulletins and to consider preparation of Health Bulletins that would incorporate their status.

As a result of the study, it was found that girls are more conscious of their health than boys, a trend similar to that shown by Namba, et al., 30 years ago. Moreover, 80% of the students consider Health Bulletins as useful, and it is indicated that preparation of Health Bulletins useful for the students’ health is expected to continue. With the diversification of schools and students, it is required to prepare and issue Health Bulletins that match actual situations accordingly.

Key word : Yo-go Teacher, Health Bulletins, Junior High School Student, Status an,Attitudes